



就任ご挨拶

沖縄及び北方対策担当大臣

尾身 幸次

この度発足した小泉改革断行内閣において、沖縄及び北方対策担当大臣を拝命いたしました尾身幸次でございます。私の沖縄との関わりには深いものがあり、党の総務局長や幹事長代理などの仕事を通じ、何度も沖縄を訪れる機会を得ております。そのおかげもあって沖縄の政界、経済界に、稲嶺県知事をはじめ多くの知己を得ることができました。

この沖縄及び北方対策担当大臣の仕事は、沖縄問題に長く携わってこられた橋本前大臣の後を引き継いだものであり、それだけでも身の引き締まる思いであります。私の希望どおり引き続き副大臣の任を務められる県選出の仲村副大臣や、大分県選出の仲道大臣政務官ともども、沖縄をめぐる諸課題の解決の促進に向けて精一杯努力してまいります。

沖縄が昭和四十七年五月に本土に復帰して以来、政府は、三次にわたる振興開発計画を策定し、これに基づきまして総額六兆円を超える国費を投入し、各般の施策を積極的に講じてまいりました。その結果、県民の皆様のたゆまざる御努力と相まって、社会資本の整備は大きく前進し、沖縄の経済社会は総体として着実に発展してき

たところであります。

しかしながら、沖縄は、今なお広大な米軍施設・区域が存在するとともに、交通の円滑化、水の確保、街づくり、環境衛生など様々な分野で整備を要するものが見られ、さらに産業振興や雇用創出の問題など今なお解決しなければならぬ多くの課題を抱えております。こうした沖縄の抱える諸問題の解決は、申すまでもなく、現内閣においても引き続き重要課題であります。

沖縄は今、21世紀を迎えて新たな発展の基盤を築くべき極めて重要な節目の時期を迎えております。私としては、沖縄を担当する特命担当大臣として責任の重さを痛感し、内閣府において充実強化された沖縄担当部局の機能を十全に発揮して、沖縄の特性を活かした振興開発の推進に全力で取り組む決意であります。

沖縄総合事務局においても、沖縄における国の総合出先機関として、また、沖縄県民の身近な機関として、振興開発等の業務を総合的、一体的に遂行するものであり、沖縄県民の期待も極めて大きなものがあります。職員各位においては、このような沖縄総合事務局の任務を十分認識し、沖縄県民にな

お一層親しまれるよう努力されることを期待するものであります。

私といたしましては、平成十三年度末で期限を迎える現行の第三次振興開発計画の後の振興施策の進め方については、21世紀の沖縄の自立的発展を図るための沖縄振興新法の在り方も含め、沖縄県とも連携しつつ、精力的に検討してまいります。

また、沖縄県民の皆様の負担を軽減すべく、引き続きSACO最終報告の着実な実施に全力で取り組む決意であります。特に、普天間飛行場の移設・返還については、沖縄県及び地元地方公共団体との間の代替施設協議会を中心に、できるだけ早く成案を得るべく努力してまいります。

この他にも課題山積の中ではありますが、これまで、沖縄のために御尽力された歴代の沖縄開発庁長官、橋本前大臣等多くの関係者の方々の情熱、熱意をしつかりと引き継ぎ、新しい世紀を迎えた沖縄の一層の発展に向けて、沖縄県や市町村、関係団体の方々をはじめ沖縄県民の方と喜びも悲しみも分かち合い、一体となって全力を尽くす覚悟であることを申し上げます。私の御挨拶といたします。